

6. 今後の課題

アセットマネジメントの評価と、レベルアップに向けた今後の課題は以下のとおりである。

表6-1：改善方策

プロセス	評価基準	改善方策		
1. 必要情報の整備	1-1, 1-2 情報の収集・整理 データベース化	<p>構造物及び設備の資産データが、更新工事の単位で整理されているか。 (タイプ3での検討が可能か。)</p> <p>管路のデータが、布設年度別に集計できるか。(タイプ3での検討が可能か。)</p> <p>財政収支見通しの検討レベル。 (タイプCでの検討が可能か。)</p>	<p>構築物・設備の資産計上は、建築、土木、機械、電気、計装に分けて行う。管路は口径、延長、管種(継手情報含む)別に行う。</p> <p>不明管があることから、周辺管路の布設年度等により再集計を行う必要がある。</p> <p>今後の水需要予測の更新を、短期間で行う必要がある。</p>	
	2. ミクロマネジメントの実施	2-1 水道施設の運転 管理・点検調査	<p>更新基準(更新サイクル)が、これまでの維持管理の実態を踏まえて作成されているか。</p> <p>構造物及び設備の機能診断を実施済みか。</p>	<p>建築構築物、配水池は定期的な外部・内部点検、更新5年前に詳細な調査、修繕を実施。</p> <p>実施済みである。</p>
		2-2 水道施設の診断 と評価	<p>構造物及び設備の耐震診断を実施済みか。</p> <p>重要路線について、管路の耐震性評価を実施済みか。</p>	<p>茱萸沢第2、杉名沢の各配水池は今後予定。</p> <p>基幹管路(配水本管は口径φ200mm以上)として評価済み。</p>
3-1 検討手法の選定		<p>更新需要の検討手法が、データの整備状況等に基づいて適切に選定できているか。</p> <p>財政収支見通しの検討手法が、データの整備状況等に基づいて適切に選定できているか。</p>	<p>今後はデータの蓄積により、施設規模の適正化を見込んだ検討を行う必要がある。(タイプ4D)</p> <p>老朽施設の増加に伴う修繕費の最適化を行う必要がある。</p>	
3. マクロマネジメントの実施	3-2 更新需要の 見通し	<p>重要度・優先度を考慮した更新基準となっているか。</p> <p>更新時期の設定において、耐震化、機能改良が考慮されているか。</p>	<p>優先度の高い施設が確認された場合は、必要に応じ再構築・再編成を行う必要がある。</p> <p>診断未実施の施設があるため、診断の結果、必要に応じ再構築・再編成を行う必要がある。</p>	
		<p>更新需要の見通しが、健全度を踏まえて算定されているか。</p> <p>健全度評価の結果は、維持管理で対応できる水準であるか。</p>	<p>健全度は日々変化するため、最新のデータに基づく調整を行う必要がある。</p> <p>経年化施設、設備に対する点検サイクルの検討が必要である。</p>	
		<p>現行の事業計画は、更新需要の見通しから見て妥当なものであるか。</p>	<p>耐震診断の結果を踏まえて再構築・再編成を行う必要がある。</p>	
	3-3 財政収支の 見通し	<p>更新需要の見通しから、問題点・課題を抽出し、地域水道ビジョン等の計画作成に適切に活用・反映されているか。</p>	<p>次回更新時において適切に対応を図る必要がある。</p>	
		<p>現行の経営計画(財政計画)は、財政収支の見通しから見て妥当なものであるか。</p> <p>財政収支の見通しから、問題点・課題を抽出し、地域水道ビジョン等の計画作成に適切に活用・反映されているか。</p>	<p>財源確保の方策を、料金改定としているが、補助金、企業債等の方策も可能性を探る必要がある。</p> <p>次回更新時において適切に対応を図る必要がある。</p>	